

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	高根支所 地域振興課	内線
	番社				3711
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
根拠計画	高山市老人福祉計画・第6期介護保険事業計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開まちづくへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支えるうえで大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、「単位クラブ」に対する活動助成 ・事務局人権費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
	算出根拠等	達成率(%)	96	97	98		
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	138
				実績値	139	138	137
	算出根拠等	達成率(%)	97	99	99		
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
				実績値	38	37	37
	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95	93	93	
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等	達成率(%)					
				目標値			
			実績値				
算出根拠等	達成率(%)						
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	420	420		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		150	149	149		
	一般財源		270	271	271		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 5,753	6,000	6,000			
	受益者	高根地区会員数(4月1日現在) (B) 73	70	70			

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入率は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ数及び加入率は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市全体として新規加入者の割合が減少しており、連合長寿会会員加入率と単位クラブの減少が課題となっている。健康で生きがいを持ちながら生活するために、地域とのつながりを深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	61199	地域活性化施設振興事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費		C	D 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	商工振興費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	道の駅飛騨たかね工房は、地域の情報発信及び特産品の直売所としてだけでなく、地域の活性化施設として重要な位置づけとなる施設であるが、年間を通じた安定した集客が困難であるため、施設の運営が非常に厳しい状況にある。よって、施設の安定した運営のため、業務委託料を支出するもの。		
概要	事業の実施手法(手段)	道の駅飛騨たかね工房の安定した運営のため業務委託料を支出するもの。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	道の駅飛騨たかね工房業務委託料 6,340千円					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	年間営業日数	日	目標値	309	310	309
				実績値	309	310	316
		算出根拠等	道の駅調べ	達成率(%)	100	100	102
	成果指標	年間入込客数	人	目標値	61,500	61,500	55,000
				実績値	48,386	35,400	30,070
		算出根拠等	観光動態調査	達成率(%)	79	58	55
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 6,340	6,340	6,340		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		6,340	6,340	6,340		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 131	179	211		
	受益者	年間入込客数	(B) 48,386	35,400	30,070		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	道の駅本来の役割の他、地場産品(農産物含む)の販売や地域情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かさない存在で、市民のニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	道の駅本来の役割の他、地場産品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かさない存在であるが、今後さらに効果のある誘客宣伝の実施や経営改善に努め、経営の黒字化により事業者が自己費用で運営可能となるような取組みが必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	道の駅本来の役割の他、地場産品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かさない存在である。レストラン部門の休止により入り込み客数はやや減少傾向であるが、地場野菜の販売等農家にとって欠かせない施設である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	施設の存続のために最小限の赤字補てん措置を行っており、コスト削減のためレストラン部門を休止するなど財政運営でも改善している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	道の駅本来の役割の他、地場産品の販売や情報発信を行っており、地場産業・農業・観光産業を発展させるために欠かせない存在である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・道の駅として、道路交通の円滑な流れを支え、休憩の他、名所や特産品などの情報を活用できるサービスを提供しており、その拠点機能をもつ施設は、ほかに類似するものはなく、施設自体は今後も継続していく必要があるが、地域振興特別予算の業務委託料が無くても、経営の黒字化により事業者が自己費用で運営可能となるような取組みが必要である。
また、レストラン部門は休業したままであるが、観光客等の入込増を図る上で何らかの対策が必要であり、運営者において利活用の検討を要する。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
-------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	地域道路端りよう管理振興事業 (市道未登記用地測量事業)	担当課	高根支所 基盤産業課	内線
種別	会計	1 一般会計	位置付け	特別予算	3731
予算	款	7 土木費	○	A 合併前から実施されているイベント・行事	
	項	2 道路端りよう費		B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	目	1 道路端りよう総務費		C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
根拠計画		地域振興計画		D その他事業	

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・未登記路線を整理し、市道の適切な管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道未登記箇所の測量を行い、所有者から寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市道池ヶ洞線、黍生線、調査延長790m(8筆)H26実績					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	調査測量済路線延長	m	目標値	500	500	1,200
				実績値	1,095	965	790
	算出根拠等	未登記路線実績調査	達成率(%)	219	193	66	
	活動指標	分筆登記済路線延長	m	目標値	400	400	1,200
				実績値	0	141	1,280
	算出根拠等	未登記路線実績調査	達成率(%)	0	35	107	
	成果指標	未登記整備進捗率	%	目標値	6.0	7	8
				実績値	5	8	10
	算出根拠等	分筆登記済路線延長累計/未登記路線(24,364)	達成率(%)	83	114	125	
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 4,975	5,663	5,986		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		4,975	5,663	5,986		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 11,930	14,229	15,836		
	受益者		(B) 4/1現在高根町住民	417	398	378	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・官民の土地の境界を明確にするために必要な事業である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・官民の土地の境界を明確にするために必要な事業であり、所有者から寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う事業であることから、事業主体となることは当然である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・未登記路線の延長が25,986mと多いため、膨大な時間と費用を要する。このため、継続して着実に遂行していく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・単価契約により土地家屋調査士協会に委託しており、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・未登記処理をすることにより、市の行政財産とすることが出来る。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・世代交代により、相続に関する課題も多くあり、地権者の了解を得ることに時間を要する。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	花いっぱい運動事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・高根地域独特の自然環境を活かした山野草を植栽することで、地域を花で飾り、観光客へのイメージアップと住民への愛着心を高揚させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・花いっぱい用の山野草苗購入 ・花壇整備・管理・花苗の植栽等を高山市シルバー人材センターへ委託		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・山野草花苗購入 285千円 ・花壇維持管理業務 475千円					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	花いっぱい花壇の整備箇所数	箇所	目標値	11	11	11
				実績値	11	11	11
	成果指標	算出根拠等	月	達成率(%)	100	100	100
				目標値	3	5	5
	成果指標	算出根拠等	月	実績値	3	5	5
				達成率(%)	100	100	100
	成果指標	小学生の郷土学習	学年	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
	成果指標	算出根拠等	月	達成率(%)	100	100	100
				目標値			
	成果指標	算出根拠等	月	実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等	月	目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等	月	達成率(%)				
			目標値				
成果指標	算出根拠等	月	実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 760	760	760		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		760	760	760		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 20	24	40		
	受益者		(B) 6~10月の道の駅利用者 37,080	32,090	19,208		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・花いっぱい運動を高根地域全域にという地域からの要望がある。 ・山野草のファンには大変ニーズが高く、他の地域で見ることが出来ない山野草花壇は人気が高い。 ・高根地域の自然景観と調和した山野草に関心を示し、訪れる方が多い。また、開花期とともに訪れる写真愛好家もいる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・花壇は国道361号線沿いに広範囲に整備されていて、町内会等での管理は困難であり、市が実施しないと維持できない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・高根地域独特の山野草を育苗し、群生させている取り組みは、既に高い評価を受けている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補植のための花苗購入と、花壇の維持管理を中心とする最小限のコストで実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・高根地域独特の自然環境に適した山野草を植栽し、地域の環境に相応しい花かざりて、訪れる観光客へのイメージアップは勿論のこと、地域住民の愛着心と意識の高揚につながっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・多年草の山野草が定着したら、苗の購入は少なくなるが花壇の管理業務は必要である。 ・初夏から晩秋に開花する山野草の品種が多様化したことで、管理面において、山野草に熟知した指導者の育成が急務である。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化振興事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・文化芸能祭を通して、地域の伝統・文化を再認識し、地域への愛着、郷土意識を高める事ができる。 ・地域の文化振興と地域コミュニティの推進を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・高根地域の文化芸能祭の運営費を社会教育推進協議会へ補助する。		

2 事業の推移・結果(Do)

目的	H26の実績	・高根地域の文化芸能祭の運営費を社会教育推進協議会へ補助。				
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	高根地区文化祭の開催回数	回	目標値	1	1	1
	実績値	1	1	1	1	
成果指標	算出根拠等	高根社教資料	達成率(%)	100	100	100
	高根地区文化祭の参加人数	人	目標値	200	200	200
成果面	実績値	250	250	350		
	算出根拠等	高根社教資料	達成率(%)	125	125	175
成果面	算出根拠等		目標値			
	実績値		達成率(%)			
成果面	算出根拠等		目標値			
	実績値		達成率(%)			
成果面	算出根拠等		目標値			
	実績値		達成率(%)			
成果面	算出根拠等		目標値			
	実績値		達成率(%)			
補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A)	150	150	150
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			150	150	150
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	360	377	397
	受益者		(B)	417	398	378

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、文化交流を通じて地域の絆を図ることのニーズは高い。 ・小中学校の発表の場として、学区内の保護者も来場し交流の場としてよりニーズが高まってきている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域の公民館等において開催される文化芸能祭等に対し補助しているものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・地域住民が文化・芸術にふれることを目的としており、多くの参加があり目的は達成されている。 ・朝日中学校の清流祭も同時に開催し、住民と子どもたちの交流もあり、地域と学校の連携も深めることができた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・この事業は地域の公民館等において開催される文化芸能祭等に対し助成されているものであり、社教推進委員が手作りで最小限のコストで最大の地域活性を図るために実施しているものである。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、文化交流を通じて芸能文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出また、地域住民の集いの場となり、地域の連携を図り生きがいと活力ある地域づくりにつながっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・少子高齢化に伴う、事業内容の見直しと自主財源の確保等、今後実施主体となるまちづくり協議会での検討が必要。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育施設費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 各軽スポーツを通して、地域の連携と健康増進を高める。 地域でスポーツ大会を開催することにより、地域コミュニティの醸成と地域の連携、住民の健康増進を図る。 		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 高根地域の軽スポーツ大会、ふれあい運動会等の運営費を社会教育推進委員会へ補助する。 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 高根地域のスポーツ振興事業運営する社会教育推進委員会へ補助 ・地域スポーツ振興事業 ・軽スポーツ交流大会 ・高根地区ふれあい運動会 ・冬季スポーツ大会 					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	各種スポーツ大会の開催回数	回	目標値	5	5	4
				実績値	5	4	3
	成果指標	各種スポーツ大会の参加者数	人	目標値	360	360	250
				実績値	248	215	190
	算出根拠等	高根社教資料	達成率(%)		100	80	75
			達成率(%)		69	60	76
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)					
		達成率(%)					
算出根拠等		目標値					
		実績値					
算出根拠等		達成率(%)					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 400	400	400		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		400	400	400		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 959	1,005	1,058		
	受益者		4/1現在高根町住民 (B)	417	398	378	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか 	A (2) ニーズが高い	A	高根地域の少子高齢化が加速する中において、軽スポーツ交流を通して地域の連携、健康増進を図ることのニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか 	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	地域住民全員を対象とし、公民館等において開催される軽スポーツ交流大会等に対し補助しているものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか 	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	ふれあい運動会を筆頭に、参加率も高いことから十分達成している。なお事業内容がマンネリ化しているという意見があることから、社教と調整しながら事業内容を見直す必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か 	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	事業の効率化・省力化・費用についても毎年検討されているところであるが、特例期間終了を見据えて社教と協議していく必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 市長公約の実現を図る上で有効に機能したか 	A (2) 効果があつた	A	高根地域の少子高齢化が加速する中において、軽スポーツ交流を通して地域住民が集い、地域の連携を図り、生きがいと活力ある地域づくりにつながっている。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	高根地域住民が集う場で参加率も高い事業ではあるが、少子高齢化に伴う事業内容見直し等、今後実施主体となるまちづくり協議会での検討が必要。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20899	遊休施設解体事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	民生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	社会福祉費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8	老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・使用されていない構築物、建物等の処分		
概要	事業の実施手法(手段)	・不用構築物、建物等の処分解体		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	旧オケジッタスキー場地下タンク撤去、処分					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	遊休施設解体処分	件	目標値		4	1
		実績値				4	1
	算出根拠等	高根支所	達成率(%)		100		100
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)					
		目標値					
算出根拠等		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	9,416	1,242	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				9,416	1,242	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	0	23,658	3,286	
	受益者	4/1現在高根町住民	(B)	417	398	378	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・使用されていない構築物、建物等の処分を行い、安心安全な市民生活を保つため、ある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有財産の処分であり、事業主体を見直す余地はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・使用されていない市有財産の処分を行い、適正な維持管理業務が実施できるようになった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小限のコストとなるよう努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・使用されていない構築物、建物等を処分することで、安心安全な市民生活が保たれ、施設の適正な維持管理業務が遂行できた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	現有施設の利用状況の把握と今後の利用について検討し、計画的な施設の維持運営が必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20899	地域財産管理事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8	財産管理費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市有財産の適正管理		
概要	事業の実施手法(手段)	・市有地を含めた子ノ原高原の土地、道路等の適正な維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・市所有面積2,655.65坪に応じた負担金75,386円=(1,000坪×40円+1,655.65坪×18円)×1.08					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	財産管理面積	坪	目標値	2,800	2,800	2,656
				実績値	2,800	2,800	2,656
	成果指標	算出根拠等	財産台帳	達成率(%)	100	100	100
				当該財産の見回り点検	日	目標値	7
		算出根拠等	子ノ原管理術報告	実績値	7	7	7
				達成率(%)	100	100	100
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等		目標値			
実績値							
	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	77	77	75	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			77	77	75	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	185	193	198	
	受益者		(B)	4/1現在高根町住民	417	398	378

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	C	・市有地の適正な管理は、市の財産を守る上からも、また全市民への市有地の適正な管理及び地域を訪れる観光客等へのイメージアップにも波及効果がある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・財産を所有している限りは適正な管理が必要である。 ・使用目的が無い	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・適正に管理されており、成果がある。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外		
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外		
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		2 / 6	→	100点換算	33 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・財産を所有している限りは負担が必要であり、今後、有効活用や処分について、統一的な考え方にに基づき検討が必要である。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (冬季高齢者住宅開設事業)	担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 民生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	65歳以上の市民	対象者数	26,737 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	空き施設の有効活用と、高齢者が安心して暮らせる地域づくりをめざすことを目的とする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・冬季高齢者住宅開設 開設期間 12月～翌3月 事業主体 高山市社会福祉協議会 旧学校教員住宅を使用 施設利用に伴う施設改修、維持管理費等		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・建物管理経費 320千円 ・社協への補助金 1,700千円					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	冬季高齢者住宅開設月数	月	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	4
	成果指標	施設利用者数	人	目標値	17	18	18
				実績値	9	10	10
	算出根拠等			達成率(%)	53	56	56
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	補足事項						
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
歳出(千円)		(A) 2,126	2,132	2,020			
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		2,126	2,132	2,020			
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 236,222	213,200	202,000		
	受益者	施設利用者数	(B) 9	10	10		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・冬季生活の安定を望む高齢者のニーズは高い。 ・特に高根地域の高齢化率は、54%と高く、独居・高齢者のみの世帯も多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・事業主体は、高山市社会福祉協議会で実績も良好である。 ・平成27年度は、まちづくり協議会で継続する。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・12月から翌3月まで安定して開設しており、高齢者も安心・安全に生活している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・事業内容を精査し、コストの縮減に努めており、必要最小限の予算執行をしている。 ・平成26年度受益者負担を見直している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・遊休市有施設の再利用により、地域福祉の充実と地域活性化を図ることができ有効であった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・冬季利用だけでなく、その他の季節の有効活用の検討や、入居者の負担割合等について検討が必要である。 ・入居者の安定確保が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	福祉センター用地購入事業	担当課	高根支所 地域振興課	内線
	番社				3711
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・土地開発基金保有土地(高根福祉センター用地)の買戻しをする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・一般会計予算による福祉センター用地を買戻し。 ・所在地 高山市高根町上ヶ洞字井ノ口340番地1ほか1筆 5,741㎡ ・買付金額 14,352,500円 ・利息 1,614,480円 ・合計 15,966,980円 ・取得年月日 平成7年7月20日		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・一般会計予算による福祉センター用地を買戻し。 ・所在地 高山市高根町上ヶ洞字井ノ口340番地1ほか1筆 5,741㎡ ・買付金額 14,352,500円 ・利息 1,614,480円 ・合計 15,966,980円																																																																																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">補足事項</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">コスト面</td> <td colspan="2">事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)</td> <td>H24 決算額</td> <td>H25 決算額</td> <td>H26 決算額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">歳出(千円)</td> <td>(A)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>15,967</td> </tr> <tr> <td colspan="2">受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15,967</td> </tr> <tr> <td>コスト</td> <td colspan="2">受益者1件当たり(円)</td> <td colspan="2">(A/B)</td> <td>42,241</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>受益者</td> <td>4/1現在高根町住民</td> <td>(B)</td> <td></td> <td>378</td> </tr> </tbody></table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	算出根拠等		目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)				目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)				算出根拠等		目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)				目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)				補足事項					コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	歳出(千円)		(A)	0	0	15,967	受益者負担(使用料・負担金等)						その他特定財源(国・県支出金・起債等)						一般財源					15,967	コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)		42,241	指標	受益者	4/1現在高根町住民	(B)		378
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																																																
	算出根拠等		目標値																																																																																																																			
			実績値																																																																																																																			
	算出根拠等		達成率(%)																																																																																																																			
			目標値																																																																																																																			
	算出根拠等		実績値																																																																																																																			
			達成率(%)																																																																																																																			
	算出根拠等		目標値																																																																																																																			
			実績値																																																																																																																			
	算出根拠等		達成率(%)																																																																																																																			
			目標値																																																																																																																			
	算出根拠等		実績値																																																																																																																			
			達成率(%)																																																																																																																			
補足事項																																																																																																																						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額																																																																																																																	
	歳出(千円)		(A)	0	0	15,967																																																																																																																
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																																																					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																																																					
	一般財源					15,967																																																																																																																
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)		42,241																																																																																																																	
指標	受益者	4/1現在高根町住民	(B)		378																																																																																																																	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	42299	食用廃油回収事業		担当課	高根支所 基盤産業課	内線	3731
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 づけ の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	4	衛生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	清掃費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	廃芥処理費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・食用廃油を回収して、精製処理し、リサイクル燃料として使用することにより、市民のリサイクル意識の向上を図るとともに、地域温暖化対策を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・一般家庭より排出される食用廃油、隔月で年6回、4箇所の資源ごみ拠点集積所で回収する。 ・回収した食用廃油は、朝日支所の処理施設で精製し、公用車の燃料(BDF)として活用する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	年12回 回収量48.5ℓ					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動指標	食用廃油回収所	箇所	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	4
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値	100	100	100
				実績値	71	70	49
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値	71	70	49
				実績値			
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
実績値							
補足事項							
・一般家庭より排出される食用廃油、年6回4箇所の資源ごみ拠点集積所で回収する。 ・回収した食用廃油は、朝日支所の処理施設で精製し、公用車の(BDF)として活用する。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	38	19	19	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			38	19	19	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	91	48	50	
	受益者		(B)	417	398	378	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・住民のリサイクル意識、再資源化に向けたニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・地域温暖化対策、環境対策につながることから政策的な重要性は高い。 ・民間による回収ルートが確立されつつあり検討が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・回収率が減少しているがリサイクル意識の向上が図られている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・シルバー委託によりコスト縮減がある程度図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・リサイクル意識の向上を更に図っていく必要がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・市民のリサイクル意識向上に向けた更なる取り組みにより、回収量増加を図る必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	51399	ワークキャンプ活用事業		担当課	高根支所 基盤産業課	内線	3731
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	タカネコーン生産組合	対象者数	30人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・タカネコーン生産組合が主催する「タカネコーン収穫祭」のスタッフとしてNPO法人NICEから受け入れし、人手不足の解消とブランド化の推進に資する。		
概要	事業の実手法(手段)	・タカネコーン実行委員会への負担金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・タカネコーン実行委員会への負担金100,000円 ・8/29~8/31 ワークキャンプ開催					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	・NPO法人NICEへの負担金	千円	目標値	100	100	100
				実績値	51	99	100
	算出根拠等			達成率(%)	51	99	100
				目標値	5,200	5,500	6,900
	成果指標	タカネコーン販売額	千円	実績値	5,580	6,670	4,236
				達成率(%)	107	121	61
	算出根拠等	タカネコーン生産組合資料		目標値	22	32	30
				実績値	31	29	19
	成果指標	タカネコーン販売数	千本	達成率(%)	141	91	63
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	51	99	100	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			51	99	100	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,700	3,300	3,333	
	受益者		(B)	30	30	30	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の高齢化により、収穫祭のスタッフを確保するのが困難な状態であり、生産組合からの要望が強い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・飛騨高山のブランドにふさわしい不可価値の高い山産品づくりに資するものであるが、定着化されれば組合事業として移行できる。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・生産組合を構成する農家が高齢化してきている中で、天候条件等により販売額は下がったが、活動内容として成果は上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・生産組合とNICEとの交流がこれまで継続している中で、コスト縮減のために他のボランティアの受入等については、慎重に検討する必要がある。 ・必要最低限の経費で、組合でも食糧等を負担している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・標高の高さを生かし栽培される糖度の高いタカネコーンは、市公約の「飛騨高山のブランドにふさわしい、不可価値の高い産地産品づくりに取り組みます」に該当し、政策面での効果は大きい。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・地域の代表的な農産物であるタカネコーンのブランドを維持していくため今後も継続していくことが理想であるが、生産組合の体制強化により組合独自の事業として以降する方向で検討する必要がある。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	野麦峠における交流促進事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	江戸時代から交通の要所として、また飛騨から塩竈が運ばれた街道として、さらに小説や映画「あゝ野麦峠」で全国的に知られる野麦峠を中心とした観光PRにより、観光客の増加を図るとともに、隣接する松本市や映画上映会をきっかけに交流が始まった岐阜市柳ヶ瀬商店街と連携し、野麦峠や高根地域の情報を発信する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・野麦峠まつり(糸引き工女行列の再現) ・「高根・つながる・柳ヶ瀬」交流イベント		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・4/5-6「高根・つながる・柳ヶ瀬」道三まつり参加 ・5/25野麦峠まつり ・10/19「高根・つながる・柳ヶ瀬」日ノ出町商店街アーケード完成式					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント回数	回	目標値	3	3	3
				実績値	3	4	3
	算出根拠等	飛騨高根観光協会資料		達成率(%)	100	133	100
				目標値	1	1	1
	活動指標	松本市との交流イベント	回	実績値	1	1	1
				達成率(%)	100	100	100
	算出根拠等	飛騨高根観光協会資料		目標値	1	1	1
				実績値	1	1	2
	活動指標	岐阜市柳ヶ瀬商店街との交流イベント	回	達成率(%)	100	100	200
				目標値	25,000	22,500	21,000
	算出根拠等	飛騨高根観光協会資料		実績値	18,947	17,158	12,849
				達成率(%)	76	76	61
	活動指標	野麦峠年間入込客数	人	目標値	25,000	22,500	21,000
実績値				18,947	17,158	12,849	
算出根拠等	観光動態調査		達成率(%)	76	76	61	
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 300	300	300		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		300	300	300		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 719	754	794		
	受益者		(B) 4/1現在高根町住民	417	398	378	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の活性化と生活基盤の確立のため、野麦峠を中心とした観光産業は欠かせない存在である。また、野麦峠の歴史は、市民の誇りであり、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・観光振興事業は、市の重要施策でもあり、地域資源である野麦峠の振興は重要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・地域の活性化を目指す組織が取り組んでいるものであり、イベントでの観光PRは大きな効果がある。 ・野麦峠の観光客数が減少傾向にあるため、地道な取り組みが必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業コストの縮減を進めているが、小規模な観光団体のため自主財源の確保には限度がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・松本市との合同開催により、同市との交流が図られている。 ・両市による観光PRの相乗効果により、県内外からの観光客もあり効果がある。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・民間(観光関係団体等)が実行委員会を組織し事業実施しているが、団体及び事務局の組織強化が必要である。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62399	地域観光施設整備事業	担当課	高根支所 地域振興課	内線
	番付				3711
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 観光施設費		O D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・野麦峠を中心とした観光施設について、危険性のある箇所や、利用者からの不満が多い箇所について改善していくことで、観光客の満足度をアップさせ、誘客に結び付ける。		
概要	事業の実手法(手段)	・お助け小屋修繕、温泉タンクの撤去など、観光施設の小規模修繕等を実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	お助け小屋外壁塗装修繕 1,015千円 お助け小屋雨戸修繕 691千円 塩沢温泉施設修繕(貯湯槽撤去) 1,026千円 中洞観光案内看板撤去 99千円					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	修繕箇所	箇所	目標値	2	7	6
				実績値	2	7	4
	成果指標	野麦峠年間入込客数	人	目標値	25,000	22,500	21,000
				実績値	18,947	17,158	12,849
	算出根拠等	観光動態調査		達成率(%)	76	76	61
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 1,229	4,746	2,832		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		1,229	4,746	2,832		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 65	277	220		
	受益者		(B) 18,947	17,158	12,849		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・観光施設の維持・修繕については、観光客等の安心・安全或いはイメージアップの観点からもある程度の市民ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・野麦峠にある観光施設は、市が所有しており、峠一帯の整備は市の責務である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・新緑、紅葉時期等、野麦峠周辺を散策する観光客の安全に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・施設の維持管理・運営に必要な最小限の修繕をした。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市有施設の維持修繕により、訪れる市民・観光客の安心・安全の確保と、利便性が図られた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・野麦峠を中心とした観光客の高根地域への誘客施策の推進が必要である。
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72299	住みよい地域づくり事業		担当課	高根支所 基盤産業課	内線	3731
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	道路橋りょう維持費		O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び観光客(高根地域全住民)	対象者数	366 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・集落間を結ぶ市道の除草等により、市民及び観光客等の通行の安全確保を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	・シルバー人材センターへの委託		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・市道5路線、8.5kmの草刈及び清掃					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	実施路線数	路線	目標値	5	5	5
		実績値			5	5	5
	成果指標	算出根拠等	仕様書	達成率(%)	100	100	100
		実施延長	m	目標値	8,500	8,500	8,500
	実績値			8,500	8,500	8,500	
	算出根拠等	仕様書(市道台帳)	達成率(%)	100	100	100	
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	567	567	473	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			567	567	473	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,360	1,425	1,251		
	受益者	4/1現在高根町住民	(B)	417	398	378	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	高齢化が進む中、集落間道路の草刈、清掃について、地域住民では対応しきれない状況であり、地域住民より市で管理して頂くよう要請がある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市道の維持管理事業であり、生活道路の環境保全からも市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	市民・観光客等の通行に安全が確保されている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	適正な実施に向け、シルバー人材センターと打合せを行い効率化を図っており、最低限のコストで事業を実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	地域景観・環境の保全、市道の安全確保、市長公約の実現が図られている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・これまで各地域の住民に協力頂いて草刈等を行ってきたが、高齢化により実施が難しい地域が増加しており、今後益々市が実施する割合が高くなっていくことが予測される。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95299	地域体育施設維持管理事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	体育施設費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	飛騨高山御嶽トレーニングセンター利用者	対象者数	2,300 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高地トレーニング強化拠点施設として、夜間もグラウンドを利用できることで利用者の増加を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山御嶽トレーニングセンターのグラウンド夜間照明の維持管理。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・夜間照明施設電気料					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	看板の設置	基	目標値	5		
				実績値	4		
		算出根拠等		達成率(%)	80		
	活動指標	飛騨高山御嶽トレーニングセンター利用者	人	目標値	2,200	2,300	2,300
				実績値	1,726	1,841	994
		算出根拠等 高トレセンター資料		達成率(%)	78	80	43
	活動指標	飛騨高山御嶽トレーニングエリア利用者	人	目標値	19,000	19,200	19,200
				実績値	16,149	14,819	16,576
		算出根拠等 高トレセンター資料		達成率(%)	85	77	86
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	385	23	21	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			385	23	21	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	223	12	21	
	受益者	トレーニングセンター利用者	(B)	1,726	1,841	994	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・夜間照明は、高トレセンター利用者や地域活動にも利用されている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市の施設である高トレセンターの維持管理及びエリア全体の宣伝にもつながるものであり、市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・夜間照明は、夏季のみの利用である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・利用状況に合わせる必要があり、改善の余地はない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・グラウンドが夜間でも利用できるというPR効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・夜間スポーツを行うための十分な照度は無い。
---------------------------------------	------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	企画費		O	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・地域住民の総意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくりへの補助。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・野麦地区環境整備事業・緩衝帯侵入防止柵等設置事業・中之宿地区美化運動事業・旧高根小学校記念公園環境整備事業・伝統文化(浦安の舞)習得事業・協働のまちづくり推進事業・上ヶ洞地区環境美化事業・消防栓ホース格納箱整備事業・高根こん太で地域おこし事業・阿多野郷地区防災環境整備事業・中之宿地内地藏看板設置事業・アンテナショップ運営事業					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	地域振興事業補助金採択件数	件	目標値	10	10	10
				実績値	11	9	12
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	110	90	120
				地域振興事業補助金実績額	千円	目標値	2,500
		算出根拠等		実績値	1,853	2,382	2,458
				達成率(%)	74	95	98
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,853	2,382	2,458	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,853	2,382	2,458	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	4,444	5,985	6,503	
	受益者		(B)	4/1現在高根町住民	417	398	378

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・環境美化事業等、地域特有のニーズがあり、住民の関心も高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・この補助金により地域住民自らが主体となって地域づくりに取り組んでいる。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・各団体の意図する事業が行われ成果も十分あり、成果指標の達成率も高い。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・各団体が最小限のコストとなるよう努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市長公約である地域の一体感、地域が手を取り合って取り組むことで、住民自らが地域づくりに積極的に取り組むことができた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域住民の高齢化により、今後の地域づくりに参加できなくなることがあることから、少子高齢化への対応が必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	高根支所 地域振興課	内線	3711
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	366 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・市有施設で、地域からの要望に即応するもの。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、農道、水路等の公共施設の軽微な修繕。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・市道舗装修繕、施設修繕、看板撤去、水路修繕等					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	地域要望対応事業採択件数	件	目標値	10	10	10
				実績値	7	6	11
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	70	60	110
				地域要望対応事業実績額	千円	目標値	4,000
		算出根拠等		実績値	3,710	2,836	7,096
				達成率(%)	93	73	100
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	3,710	2,836	7,096	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,710	2,836	7,096	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	8,897	7,126	18,772	
	受益者		(B)	4/1現在高根町住民	417	398	378

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・広大な面積の高根地域にあつては、公共施設の老朽化も多く、市民が安心安全に暮らすため、改善や修繕を求めた要望は多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の修繕である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・住民の要望に即応する事業であり、十分な成果が上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小限のコストで適正に行われている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・市有施設の修繕により、市民が安心して利用できるようになり、高根地域の個性あるまちづくりの推進に寄与できた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	21100	土地借上料	担当課	高根支所 基盤産業課	内線
	9	簡易水道事業特別会計			3731
予算	会計	9	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1		D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	簡易水道施設地主(基準外)	対象者数	5人
	どういう状態にしたいのか(意図)	水道施設用地の借上料		
概要	事業の実施手法(手段)	市の基準を上回る土地賃借		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	簡易水道施設、資材置場土地賃借料					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	土地賃借契約数	人	目標値	14	5	5
				実績値	14	5	5
	成果指標	算出根拠等	契約書	達成率(%)	100	100	100
				給水人口	人	目標値	417
	成果指標	算出根拠等	台帳	実績値	392	378	371
				達成率(%)	94	95	98
	成果指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
成果指標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	152	135	132	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			152	135	132	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	30,400	27,000	26,400	
	受益者 基準外の土地所有者数		(B)	5	5	5	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	安心安全な水の供給に対する市民の関心は高く、そのため施設の借上等は必要不可欠である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	公益性から妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	安心安全な水道の提供に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	契約更新時に市の基準により契約できるよう所有者と引き続き交渉していく。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	安心安全な水道の提供に寄与しており、政策の推進に効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・土地賃借料が市の基準となるよう所有者との単価交渉を継続的に進めた結果、基準外の所有者は減少した。
・今後も安心安全な水の供給のため、引き続き交渉を継続する。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)	課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定